

LINKAGE

[繋ぐ]



借りてきた猫



猫に唐傘



窮鼠
猫を嚇む

猫舌



猫が茶を吹く



猫の額



猫も杓子も

猫の寒恋い

猫の手も
借りたい



The charm of "ORIGAMI" is rediscovered.

人と人を結ぶ 「折り紙」のチカラ。

誰もが気軽に楽しめる、日本の伝統文化

折り紙

一枚の紙を折ることで、さまざまな形を作り出す「折り紙」。
「折り紙」＝「ORIGAMI」は国際語とも言われ、日本の伝統工芸の二分野として日本のみならず世界各国の人々に愛され続けています。
そのように日本固有の文化・芸術でありながらも、一部の愛好家を除けば子どもの頃以来、折り紙をする機会がないという人の方が大半かもしれません。
折り紙は、年齢、国籍を超えて、誰もが気軽に楽しめるエンターテインメント。
その魅力について、もう一度見つめ直してみませんか？

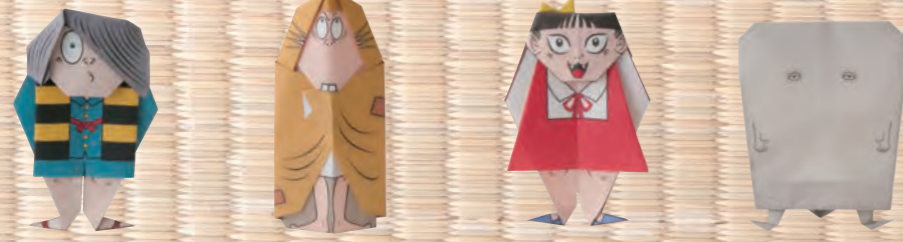
- 辿る** 01 「紙育(カミイク)」
世界が注目する日本の「折り紙」。
- 作る** 06 「PAPERCRAFT on the DESK」
折る度に新しい表情が出現「ファニーフェイスカード」。
- 愛する** 08 「KAMI-WAZA 紙ワザ」
純国産の線香花火「ひかりなでしこ」。
- 先ほど** 09 「EDGE of PAPER」
1/100スケールの紙製模型&紙製虫よけリング。
- 伝える** 10 「紙が紡ぎ出すものがたり」
ピアノ調律師が用いる“小さな紙”とは？
- 深める** 11 「KPP HEADLINE」
KPPの最新ニュースをキャッチアップ。
- 出会う** 13 「KPP人物図鑑」
アイデアを生む、キーマンの情報整理術。
- 広げる** 14 「PAPER TRIVIA」
職人の巧みな技が活きる「水うちわ」の美しさ。
- 感じる** 16 「季節の一冊」
17歳の少年を成長させた真夏の旅の物語。

COCHAE (コチャエ)

軸原ヨウスケさん、武田美貴さんによるデザイン・ユニット。折り紙の多様性に、ポップかつ和風のグラフィックを組み合わせた数多くの作品を発表。日本のみならず、グローバルに活動の場を広げ、出版、ワークショップ・展示会の主催など、その内容は多岐にわたる。「折り紙CA」(青幻舎)、「ぬりえおりがみ」(ビジネス社)、「妖怪おりがみ」(講談社)、「百羽鶴」(青幻舎)、「めでた尽くし」(講談社)など、折り紙を1セットにした商品・著書多数。また、ユニット名の由来は、2人の出身地である岡山県に残る民謡「こちゃえ節」から。天保時代に流行した俗語で、「こちらへどうぞ」「こっちはいいぞ〜」など複数の意味を持つお囃子言葉。
[COCHAEホームページ: <http://www.cochae.com/>]



COVER PHOTO
コチャエの折り紙ポストカード集
「ねこおり 折り紙CA③」
「猫に小判」、「猫をかぶる」など、24の猫にまつわることわざ、慣用句をモチーフにしたクラフトブック。切り離してポストカードとしても使えます。



【鬼太郎】

【ねずみ男】

【ねこ娘】

【ぬり壁】

ゲゲゲの鬼太郎折紙

鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男、ねこ娘、一反もめん、ぬり壁といったおなじみのキャラクターを収録。ネットショップ「妖怪本舗」で購入可能。
(<http://youkai.ciao.jp/order/>)



【金魚】

【ひょっとこ】

【ゆきんこ】

【凧】

折りCA④ ニッポンおり

日本の風物をモチーフとした心と和む折り紙を一冊にまとめたポストカードブック。金太郎、犬はりこ、おかめ、うさぎ、獅子舞など、24種を収録。(青幻舎)

「折り紙」の魅力 素人の目線から再発見

鶴、かぶと、奴さん、手裏剣、だまし舟、風船、箱、くす玉、バラ、あじさい、かざぐるま……。幼少期に覚えた折り紙の数々は、その折り方を教えてくれた人との思い出とともに、大人になった今でも心の中に記憶されています。しかし、最後に折り紙を教えたもらったのは幼稚園、小学校の低学年が最後。それ以来、折り紙に触れたことがないという人の方が大半ではないでしょうか。(何も見ずにいくつの折り紙が作れますか?)

「一枚の紙さえあれば、誰でも手軽に楽しめるのが折り紙の魅力です」。そう話すのは、遊び心あふれるポップな絵付き折り紙を中心に創作活動続ける「コチャエ」の、軸原ヨウスケさんと武田美貴さん。お二人が折り紙作品を作り始めたのは、学生時代。折り紙を得意とする友人が考えた折り方の展開図に、アート性の高い写真などの視覚要素を盛り込んだ作品をフリーペーパー上で発表したのがきっかけだそうです。「もともと、折り紙が得意だったのは友人だけ。僕たちはまったくの素人だったんです。素人の目線から折り紙を見て、折るたびに次々と形が変化していく楽しさや折り図の美しさなど、この面白さがいまも伝わっていないな、と。それを僕たちのような折り紙をしなくなった若者にも伝わるように変えていきたいと思ったのがきっかけですね」。

指先の運動が脳の発達を促し、図形認知の力を育てる。また、集中力や持続力を育て、情感を豊かにするといった効果が注目され、折り紙は幼児教育に広く用いられています。さらにはストレス解消や老化防止、リハビリの分野での研究が進み、高齢者を中心に折り紙を楽しむ人も増加傾向に。しかし、その中

レビなどのメディアでも数多く紹介されたことで、国内外から高い評価を得るようになっていったそうです。その後、さまざまな折り紙を1セットにした商品が次々と世に送り出されていきます。その創作活動は、「まず、テーマやモチーフを考えることから始まります。次に完成形をイメージして折り方を考えるのですが、それは試行錯誤の連続ですね。折っては開いて、を何度も繰り返して考えていきます」。

そして、コチャエのお二人が何より大切にしていることは、折り終わった時に驚きがあるかどうか。「今、折り鶴をつくっても誰も驚きませんが、折り紙が庶民の間ではやり出した当時、それを見た人は誰もが「すごい!」と思ったはずですよ。その折り紙本来の感覚を取り戻してもらえたら、と思っています」。また、折る前

間にいる大人たちはどうかというところ、小さな子どもを持つ母親を除いて、折り紙に触れる機会はほとんどないのが実情です。「コチャエ作品のコンセプトは、一部の人が折ることができない複雑な折り紙ではなく、誰でも簡単にすぐ折ることができて、楽しいと思えるもの。折り紙を忘れていた人が、もう一度手にとってもらうきっかけになるような作品を作りたいですね」。

折り紙を考えるうえで、 最も大切なのは「驚き」

コチャエ作品は、フリーペーパー上での発表後、雑誌「装苑」においてニューカマーとして取り上げられ、テ



何度も折っては、開いてを繰り返すことで、完成イメージに近い折り方・ビジュアルを考えていく。

の展開図の美しさもコチャエ作品の特徴のひとつ。「折り図のまま持っている人、飾っている人も多い」と言うように、折る前、折った後の二度楽しめるのも、折り紙の魅力なのかもしれません。

逆輸入の視点から、 日本文化の素晴らしさに触れる

コチャエ作品が人気を集めるもう一つの理由が、和のテイスト。多くの作品に、日本の古典文化に関するモチーフやデザインが取り入れられています。「大正時代に作られた『チエノオリガミ』という絵付折り紙との出会いが、ひとつの転機になりましたね。そこに用いられている風絵のようなデザインと、簡単な折り紙の相性がすごく合うな、と気がついたので。どちらも無名の人たちが作り出したものなんですけど、僕たちの世代にはすごくモダンなものに見えた。外国人の方も僕たちの作品をたくさん買ってくれるのですが、ある意味、それと同じような、逆輸入の感覚に近いですね」。

また、コチャエのお二人は、日本の民芸品や郷土玩具に対する造詣も深く、「日本にはまだ僕たちの知らない、素晴らしい伝統文化がたくさんある」と訴えます。埋もれている日本文化の魅力を掘り起こし、現代の人々にも受け入れやすいポップな形へと昇華させていく。その繰り返しが、国内外のファンを惹き付ける一番の理由なのかもしれません。

「折り紙を通して、日本文化の素晴らしさを 世界にアピールしたい」(軸原さん)



【兜】

【蟬】

【福助】

【カエル】

古典シリーズ

日本に古くから伝わる伝承折り紙と浮世絵模様を組み合わせた、COCHAE定番の折り紙。セット商品は、7種類(鶴、亀、カラス、兜、蟬、福助、カエル)を収録。



【バイソン】

【クマ】

【ペンギン】

【ゾウ】

SHUTIFF 折り紙ポストカード

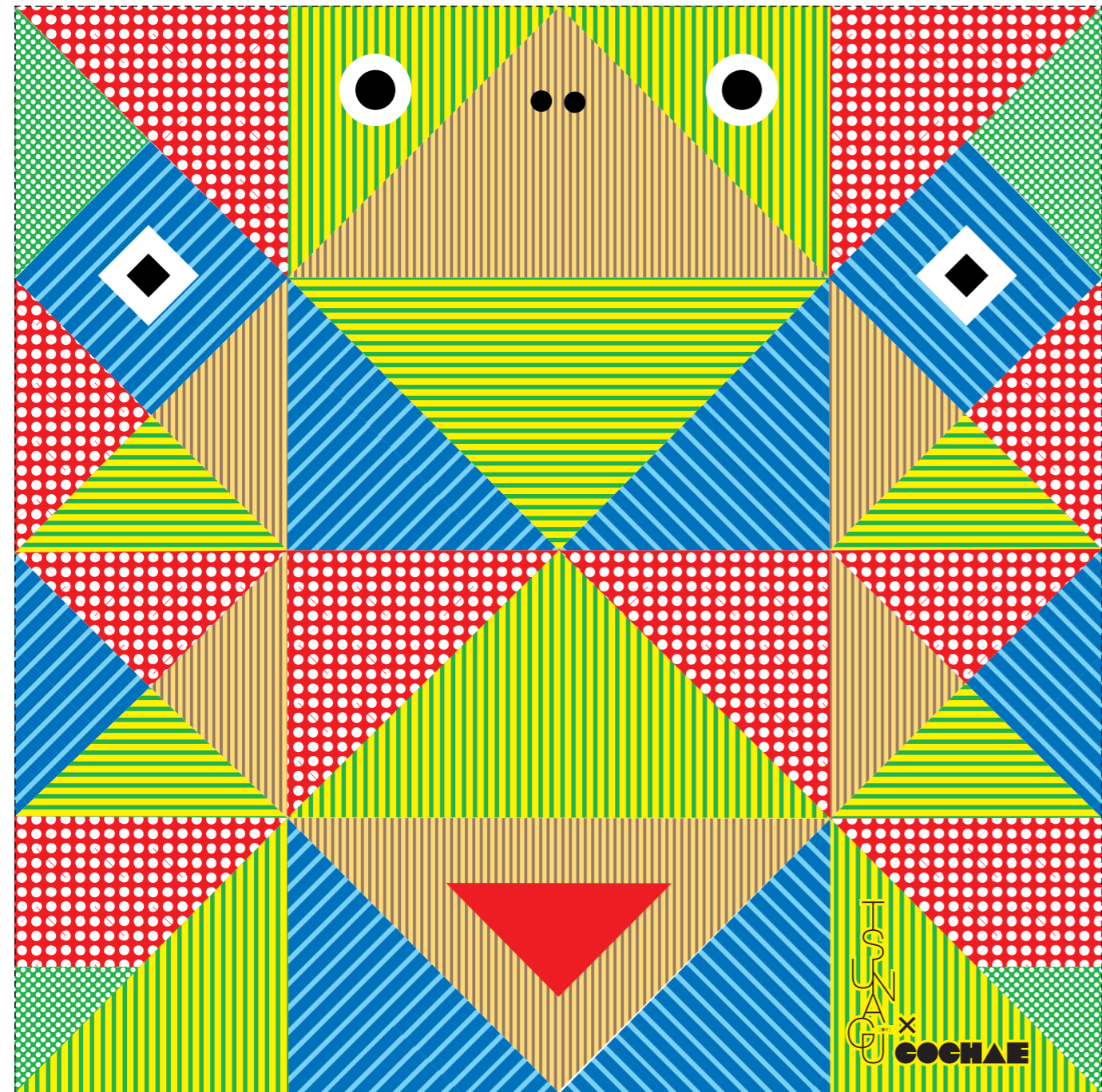
北海道新千歳空港内にある、ドイツ・シュタイフ社のネイチャーミュージアムで配布された折り紙ポストカード。バイソン、クマ、ペンギン、ゾウの4種あり。(配布期間終了)



紙と触れ合い、モノを作る
「PAPERCRAFT on the DESK」

TSUNAGU特別仕様 コチャエの「ファニーフェイスカード」

このファニーフェイスカードには、折り図がありません。
あなたの折り方次第で何百通りの顔が出現する折り紙です。
笑った顔や怒った顔、いたずら好きの顔、間の抜けた顔…。自由に折って楽しんでみてください。
また、裏面はメッセージカードになっています。



一点線に沿って切り取ってください。

例えば下記の順でプレゼントしてみましょう。
いつもとは違った反応が返ってくること間違いなし!

- ① 裏面にメッセージを書く
- ② 渡すお相手に近い顔をつくる
- ③ 直接渡すor相手のデスクに置く

「ファニーフェイスカード」2008年度グッドデザイン賞受賞作品の特別仕様



折り紙ふるしき

風呂敷専門店「むす美」と共同開発した、折り紙ふるしき。折り方や包み方によって、モチーフの表情や色が変わります。写真のまねき猫のほか、ししまい、福すけ、七福神などもある。

アートとしての高い評価を受ける
日本の「ORIGAMI」

折り紙は「ORIGAMI」として、世界中どこでも通じる共通語であり、各国に愛好家の組織が形成されています。コチャエのお二人は、アメリカでの折り紙ブックの出版のほか、現地の人々が参加するワークショップを海外で実施するなど、活動のフィールドを世界に広げています。「先日、メキシコでワークショップを開いたんですけど、「折り紙」という言葉は知っていても、実際に作ったことのある人は一人もいなかった。で、鶴を折った途端、大歓声が起こって大盛り上がり。もっと世界中の人に折り紙の素晴らしさを伝える機会を増やしたいですね。」

1枚の紙というシンプルなものから、無限大にさまざまな形を生み出す折り紙は、アートとしての世界的な評価が高い。コチャエさんは、その可能性がますます広がっていることを実感しているそうです。



「折り紙は、心の距離を縮める
コミュニケーション・ツールなんです」(武田さん)

折り紙は、もともと手軽な
コミュニケーション・ツール

コチャエさんの折り紙ワークショップは国内でも、「子ども向けのワークショップで、鶴を折れない子が多くいますね。多くの子どもたちは、幼稚園などで夢中になって折り紙をしているのに、年を重ねるうちにテレビゲームに興味に移ってしまってしまふ。紙さえあれば楽しめる折り紙を、もう一度見直してほしいですね。」

さらに、折り紙がコミュニケーションの取りやすい遊びであることも、魅力のひとつだと語ります。「ワークショップに一人で来た人でも、気がつくと思わず誰かと話しながら折り紙をしている。折り紙は誰かと仲良くなるためのコミュニケーション・ツールなんですよ」。難しいところを手伝ってあげる、新しい折り紙を教え合ふ、その作品に対する感想を伝える。ともに楽しむ中で会話が広がり、親子や友だちの関係が自然と深まってくるのも不思議です。また、折り紙は、メッセージを添えてプレゼントする、といった活用方法も。人と人の距離を縮め、こころを豊かにする折り紙。その魅力にあらためて触れてみませんか？



パソコン上でデザインを施し、データ作成。折る前の幾何学的な美しさにこだわる。

世界でも高い評価を受ける コチャエの折り紙

アートとして、世界的に高い評価を受ける日本の折り紙。その人気を裏付けるように、コチャエの折り紙ブック「ORIGRAFIX」シリーズは、海外ですでに2冊出版されています。「ピククリおもちゃ編」(写真)は、飛行機やカメラ、かざぐるまなど、楽しいおもちゃ作品が、『伝統編』は、

蝶やだるま、奴や鶴など、日本文化を紹介する作品がモチーフに。ともに幾何学的なグラフィックの美しさも注目されています。「さらに海外での新たな出版も決定しています。また折り紙の特性を活かしたアパレルブランドとのコラボなど、新しい依頼も増えています。折り紙は今後ますます世界のアートシーンに登場すると思いますよ」。コチャエ作品が折り紙の素晴らしさ、楽しさを世界に広めるアンバサダーとなっているのです。





日本で販売される線香花火の99%は中国製。純国産の線香花火メーカーは、数社しかない。



紙の撚りから梱包まですべての工程を手作業で行うため、1日の生産数は約200本に限られる。



和紙は1枚ずつ分別した後、短冊状にして使用。細部に至る緻密さが必要とされる。

【写真：右】「ひかりなでしこ」を開発した齋藤公子さん。今後、開発したい商品の構想も山積みと、その探究心と情熱は尽きることがない。

【左上】持ち手部分には、天然の草木から採った染料によって、やさしい色が施されている。

【左下】12本・35本セットは、贅沢な桐箱入り。毛筆のあいさつ文も同梱されている。



線光花火「ひかりなでしこ」

5本セット (5本×1束) 1,260円～

(有)やまと花火
群馬県北群馬郡吉岡町小倉155
TEL 0279-54-5920
http://www2.wind.ne.jp/gun_kako/

紙を愛する匠たち 「KAMI-WAZA 紙ワザ」

夏の風物詩、花火。風呂上りに浴衣を着せてもらい、庭先に出て花火を楽しむ子どもたちの姿は、日本の夏に欠かせない光景です。そんな家族と楽しむ花火の最後は、いつも決まって線香花火。夏の夜の闇にチリチリと松葉のように伸びる優美な火花と硝煙の匂い、ポトリと落ちる火玉のはかなさは、世代を問わず愛され続けるものです。その線香花火の魅力に魅せられたのが、女性花火職人の齋藤公子さん。父親の花火工場で働きながら19歳で研究をはじめ、約30年かけて完成したのが、純国産の線香花火「ひかりなでしこ」です。

この「ひかりなでしこ」の一番の特徴は、最大で半径30センチにもなるという大きな火花。その開発のきっかけになったのは、「昔の線香花火はもっと火花が大きかったよね」というお客様からの何気ない一言だったそうです。その要望に応えようと、齋藤さんは線香花火にかなう和紙を探し、全国各地を奔走。これは、と思う和

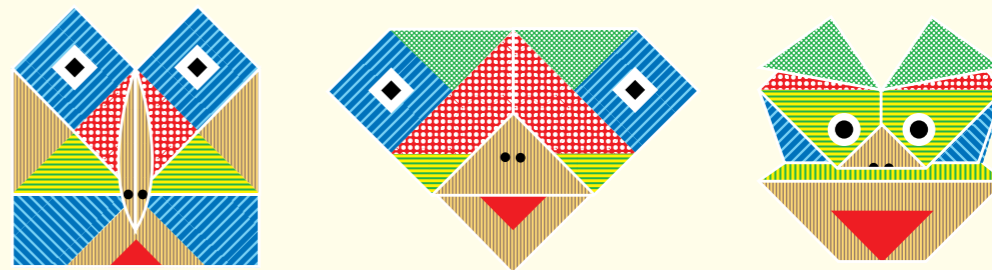
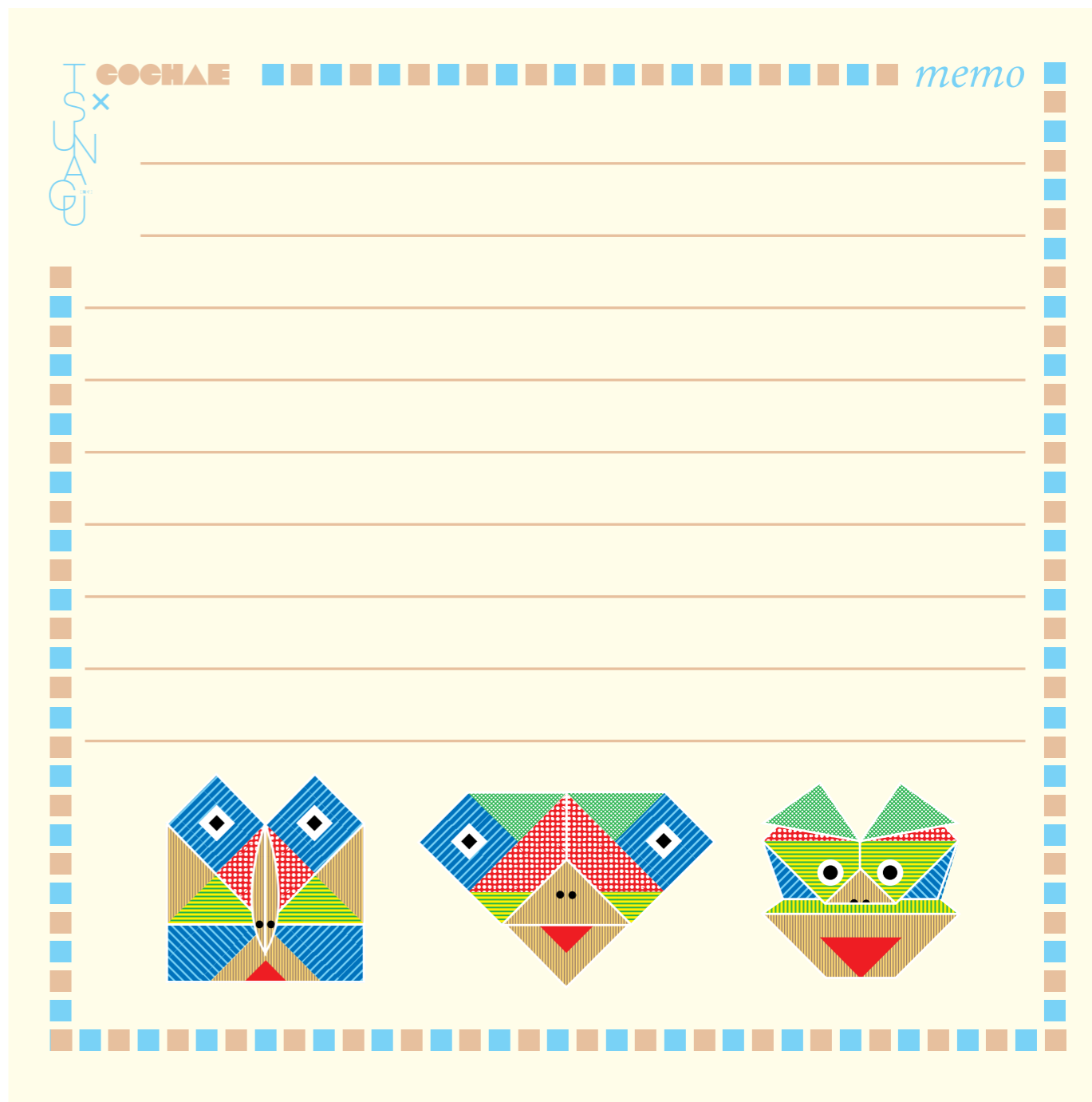
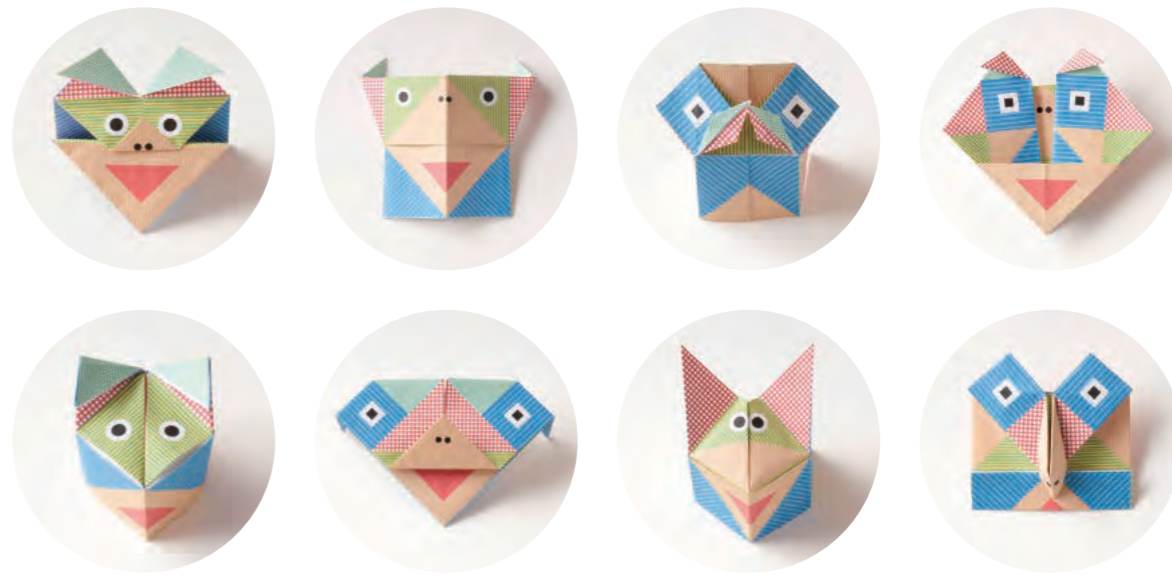
紙をつひとつ取り寄せるなどして最終的にたどり着いたのが人間国宝による手漉き和紙だったそうです。「線香花火の火薬はとてもデリケートなもの。当然、それを包む和紙選びも大切な要素なんです」。そのほか、赤松の松煙を調合した火薬の配合比率や、火薬を巻く和紙の撚り方など、あらゆる面から大きく美しい火花を作るための方法を独自に研究。ヒントとなるものがあれば、日本各地へ惜しみなく出向いたそうです。こうした齋藤さんの探究心と行動力が、「ひかりなでしこ」という大輪の花を咲かせました。

この日本「美しい」と称される線香花火を求め、日本全国から注文が殺到。今では冠婚葬祭の贈答品やお中元・お歳暮としても広く利用されているとか。日本の美を感じる、夏の夜の小粋な楽しみとして、さらには大切な方への贈り物としても喜ばれること間違いなしの逸品です。



日本一美しい大輪の線香花火「ひかりなでしこ」

例えば…



切り取りは前ページから

紙が支えるプロの技
「紙が紡ぎ出すものがたり」

タローネの紹介でミケランジェリに会った村上さんは、思いがけないことに、その場でミケランジェリの家のピアノの調律を依頼される。これは村上さんの技術や人間性を試すテストだったのだろうか。村上さんはミケランジェリの家に1週間泊まり込み、7台のピアノの調律をすることになった。

幅広い音域と、その豊かな表現力から「楽器の王様」とも呼ばれるピアノは、木材や羊毛（フェルト）、革などの天然素材をふんだんに含む、約8000ものパーツからできている。それらすべてのパーツを微細に調節し、ピアノ本来の音、そしてピアニストの望む音を作り出すのが調律師の仕事だ。

村上輝久さんは、日本に約1万人いるという調律師の頂点に立つコンサートチューナー。村上さんの輝かしい歴史は、37歳の時、本場の音を学ぶために弟子入りした、イタリアの調律師、アウグスタ・タローネの工房から始まった。当時のタローネは、アルトゥーロ・ヴェネデッティ・ミケランジェリの専属調律師。ミケランジェリは完成度の高い演奏で世界中の注目を集めるピアニストだった。彼は、自身の演奏や楽器の状態はもろろんのこと、ステージ上の湿度に至るまで完璧さを求め、奇才、完璧主義者、そして演奏会のキャンセル魔としても知られていた。

第二回 巨匠の演奏を支える
調律師・村上輝久さんが使う『小さな紙』



村上輝久

1929年生まれ。ヤマハ株式会社に入社。1966年～70年まで、調律の勉強のため渡欧。ミケランジェリ、リヒテル、シフラら巨匠たちの専属調律師として、世界26カ国を回る。帰国後、調律の専門技術者を育成するヤマハピアノテクニカルアカデミーを設立。著書に『ピアニストと語る』（芸術現代社）『いい音ってなんだろう』（ショパン）など。2007年第17回新日鉄音楽賞特別賞受賞。

一般的にピアノの「調律」と言えばピアノの弦を張ったり緩めたりして音程や音階を整えることをイメージするが、実はピアノの鍵盤タッチを整える「整調」も、調律の大きな仕事の一つ。整調の方法は、ピアニストの手の大きさや指の長さ、タッチの好みなどによっても異なるのだが、ここで用いられる「一番重要なアイテムが『紙』なのだ。

ピアノの鍵盤の下には、二つの鍵盤を支えるピンの根元に、小さなフェルトのクッションが置かれている。が、フェルトの厚みは湿度の変化などによって微妙に変わり、それぞれの鍵盤の高さや、鍵盤を押し下げたときの深さに、わずかな誤差を生じさせる。その0.1ミリほどの誤差を、ピアニストは「音」としてはつきりと聞き分けるのだという。

その誤差を調整するために使われるのが、パンチングペーパーと呼ばれる0.1ミリ刻みの小さな紙だ。たとえば「今日はどうでしたか」という問いかけに、「ちょっとやさしすぎたかな」という感想をもらえば、村上さんはそれを「鍵盤を押し下げたときの深さを0.1ミリ深くする（＝一般的には弾きにくくなる）」というふうに変換して、パンチングペーパーをフェルトの下から一枚一枚抜いてみる。もちろん、その逆もある。

ピアニストの求めるものを、調律という形で翻訳し

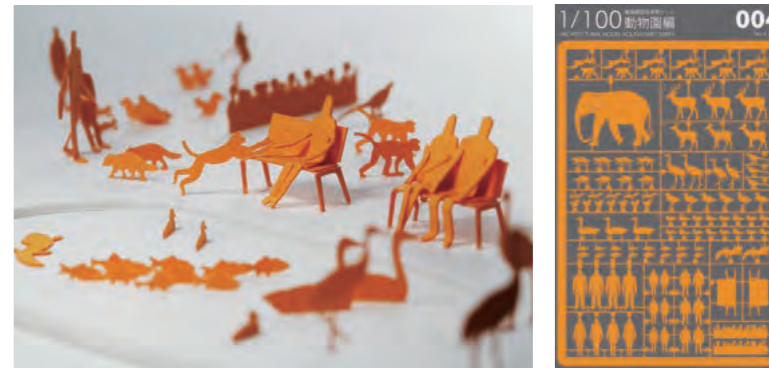
紙の“先端”にフォーカス
「EDGE of PAPER」

01 「テラダモケイ 1/100建築模型用添景セット」

発売：テラダモケイ <http://www.teradamokei.jp/>

想像力をかき立てる
1/100スケールの紙製模型

ポストカード大のタント紙に、組み立て前のプラモデルのようにレイアウトされた極小パーツ。人間や動物をはじめ、ベンチや街路樹、自動販売機に至るまで、精密なブレカートを施されたミニチュア・ペーパーモデル「1/100建築模型用添景セット」が人気です。これは、建築家である寺田尚樹さんの日々の業務から生まれたもの。建築物の模型を作る際、そのスケール感を伝えるために人間などの添景を予め作り置きしておこうという意図からスタートしたそうです。その魅力は、カタチを省略、デフォルメした1/100スケール独特の世界観。2センチ弱の人間の配置やポーズを変えることで、自分だけのストーリーや設定を自由に創作、妄想にふけて楽しむ人が続出しているとか。「組み立てる」楽しさに、「想像する」楽しさが加わった新しい模型。是非一度お試しあれ。



「1/100建築模型用添景セット 動物園編」 カラー：黒／白／オレンジ



「1/100建築模型用添景コースター 草原編」



「1/100建築模型用添景セット 中央線（快速）201系／総武線（各駅停車）201系」
※JR各ショップのみの販売 www.ejrt.co.jp/trainiart/

02 「ムシガード 虫よけ紙リング」

発売：桐灰化学（株） <http://www.kiribai.co.jp/>

紙製だから使いやすい
リング型の虫よけ新アイテム

キャンプや花火大会、お彼岸のお墓参りなど、家族で外出する機会が増える夏場。蚊をはじめとする虫たちは厄介な存在です。そんな夏場の防虫対策としておすすめなのが、この「虫よけ紙リング」。1日使い切りの紙製なので、必要な時に新鮮な効果が得られるほか、8枚入りなので家族や仲間と分け合って使うのにも最適。また、サイズ調整が可能なので、子どもの手首や足首、バッグやベルトにも装着できるスグレモノです。レジャーの必須アイテムとして、備えておいてはいかがでしょうか？



- POINT1 虫よけ成分は天然のレモンユーカリオイル100%
- POINT2 リングの内側はフィルム加工になっているので、薬剤が肌に触れにくく安心
- POINT3 自由にサイズ調整ができるので、家族だれでも使用可能

MERGER

さらなる発展、成長をめざし、
今秋、住商紙パルプと合併へ

5月11日、当社は10月1日をめどに、住商紙パルプ株式会社と合併することに合意しました。

リーマンショック以降、国内紙需要の回復の足取りは重く、円高傾向の定着により輸入紙が増加するなど、紙パルプ産業はボーダーレス化が進んでいます。また、製紙会社においては再編・集約が進み、海外展開も加速。一方で、流通に対しても事業構造改革が求められています。

これら直面する市場環境を踏まえ、流通としての機能をさらに充実させ、経営基盤・財務体質の強化を図ることを目的に、合併契約を締結することにいたしました。

今後は、国際紙パルプ商事の「洋紙」、住商紙パルプの「古紙」「板紙」といった両社の強みを結集。事業分野の強化と効率化を推進するとともに、住友商事が持つ海外ネットワークのサポートを得ながら、当社のさらなる海外展開を図るよう努力する所存です。



調印の様子



赤松社長(左)と江良住商紙パルプ社長

■合併後の企業概要

項目	年度	国際紙パルプ商事	住商紙パルプ	合計
売上高	2010年度	2,940億円	611億円	3,552億円
経常利益	2010年度	19億58百万円	3億01百万円	22億59百万円
当期純利益	2010年度	6億32百万円	1億50百万円	7億83百万円
総資産額	2011年3月31日	1,562億円	166億円	1,728億円
従業員数	2011年3月31日	651名	103名	754名

MANAGEMENT PLAN

創立100周年に向けて
中長期経営計画「GIFT+1 2024」を発表

当社は2024年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、新たな成長を求め、中長期経営計画として「GIFT+1 2024」を策定し、発表しました。

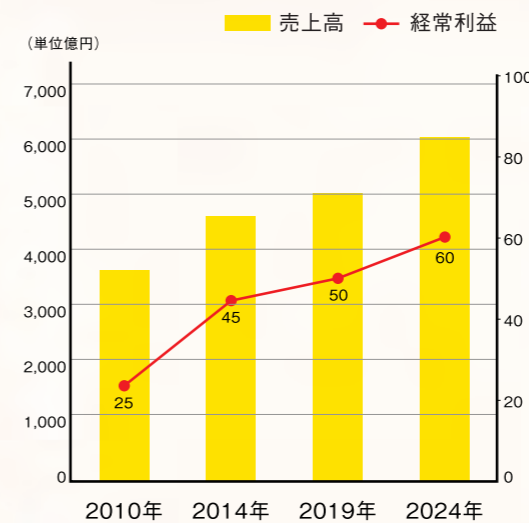
文化のパロメーターと言われる通り、有史以来情報メディア産業を常にリードしてきた紙も、ITの驚異的な進化によって、今日では電子媒体との併存が当たり前になってきました。このように当社のコア事業である紙産業が過渡期を迎えているなかで、国内事業の再構築と海外市場に対する販売ネットワークの拡大などをテーマに、新たなビジョンを示したものが、この「GIFT+1 2024」です。

国際紙パルプ商事グループは一丸となって、この目標達成に向け邁進してまいります。

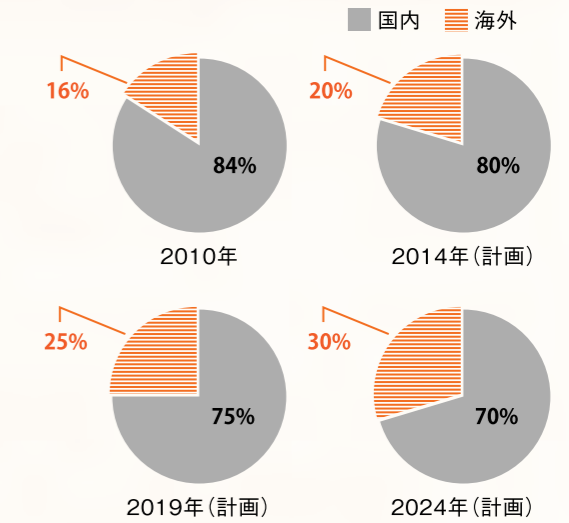
GIFT+1 2024
2024年(創立100周年)目標

- グループ売上高 6,000億円
- 経常利益 60億円
- 海外売上比率 30%

■経常利益推移(計画)



■国内・海外売上比率推移



●「GIFT+1」は、当社の経営ビジョンです

- G (Globalization) 世界規模で経営を考える
- I (Innovation) これからの紙の未来を創造する
- F (Function) 迅速で無駄の少ない流通機能を構築する
- T (Trust) 社会の発展に貢献する
- +1 (プラスワン) 環境に配慮した企業活動を推進する

上記の目標を達成するため、5年単位の中期経営計画を定めます。基本となる経営課題を①事業・営業 ②人財・教育 ③環境・社会貢献 ④財務・投資の4つの領域に分け、それぞれの戦略をテーマごとに強力に推進します。

詳しくは、当社ウェブサイト (<http://www.kppc.co.jp/>) をご覧ください。

紙の持つ可能性・面白さ再発見 「PAPER TRIVIA」



絵柄は、金魚、紫陽花、アザミ、川トンボといった夏の風物詩がモチーフ。



「水うちわ」6,825円(税込)～
製造・販売：家田紙工(株)
<http://www.iedashikou.com/>

涼やかで透明感あふれる美しさ 和紙を使った「水うちわ」の魅力

電力需要のピークとなる夏を目前に節電の機運が高まる中、昔ながらの生活の知恵が見直されつつあります。気化熱を利用した「打ち水」、陽射しを遮りながらも風を通す「よしず」や「すだれ」、その音色で涼感を得る「風鈴」など、江戸時代の手軽な暑さ対策を取り入れる家庭が増えています。

そんな先人たちの奥ゆかしい知恵と、職人の緻密な技が詰まった逸品が、この「水うちわ」。その大きな特徴は、水饅頭のようにツルリとした、透明度の高い見た目にあります。その決め手となるのが、扇部に張る美

濃手漉き和紙。これは雁皮がんどと呼ばれる植物の樹皮を使って漉く和紙で、一般的な和紙に使われる楮こうぞよりも繊維が細く短いため、手で漉くことで薄くなめらか、それでいて丈夫な和紙に仕上がるそうです。このあぶら取り紙のように薄い和紙に天然由来のニスを塗ることで、ツルリとした透明感が生まれます。

また、水うちわは、水につけても破れず、水滴がついたままあおぐことで、水しぶきの気化熱効果によって涼しむといった楽しみも。この夏は浴衣姿で川辺や船の上から、ちよと風流な涼み方を試してみませんか？

夏の催しが充実 ”紙の博物館“

夏休みのおでかけにおすすめなのが、「紙の博物館」。期間限定の特別展示のほか、ご家族で楽しめる体験イベントも充実しています。紙の昔と今。その移り変わりを辿りながら、紙が文明・文化の発展に果たしてきた役割、さらには紙の多様性と可能性など、新しい発見を楽しんでみてください。



紙すき教室



牛乳パック工作

紙の博物館(東京都) <http://www.papermuseum.jp/>

東京都北区王子1-1-3 / TEL 03-3916-2320
開館時間 10:00～17:00 / 閉館日 月曜日(祝休日の場合は翌日)
入館料 大人300円・小中高生100円

■主な夏期催事 / 特別展示

- 7/1(日)～9/2(日) 夏の紙知(シ)シリーズ「記録と紙～紙に記す～」
- 7/26(木) 親子で行こう!紙の工場見学
- 8/2(木) やさしい教室「紙を知ろう」 8/16(木) 野菜から紙をつくろう
- 8/23(木) 牛乳パック工作 毎週土・日曜日「紙すき教室」

※「夏の紙知(シ)シリーズ」、「紙すき教室」以外のイベントには、事前申込が必要です。

紙の美術博物館(新潟県)

長岡市小国町上岩田208 / TEL 0258-95-3161 (養楽館)
開館時間 10:00～17:00 / 原則 土・日曜日のみ開館(その他、見学ご希望の方はお問い合わせください) 入館料 無料
<http://www.ogurin-park.com/> / おくに森林公園

いの町 紙の博物館(高知県)

高知県吾川郡いの町幸町110-1 / TEL 088-893-0886
開館時間 9:00～17:00 / 閉館日 月曜日(祝休日の場合は翌日)
入館料 大人500円・小中高生100円
<http://www.k3.dion.ne.jp/~tosawasi/>

※情報は6/8現在。詳細は各ウェブサイト等でご確認ください。

編集後記

今号は日本の伝統文化「折り紙」を表紙に掲載しましたが、皆さんいかがでしたか？折り紙の起源はわかっていないようですが、文献で確認できる範囲で日本のもっとも古い記録は、1680年に井原西鶴が詠んだ句にあったようです。18世紀には、「折り鶴」や「奴さん」のような折り紙が、浮世絵や着物の柄などに描かれるようになり、そして300年以上たった今でも日本の文化として受け継がれています。世界的にも「ORIGAMI」で通じるほどになっており、今回登場のコチャエさんのように独自の創作で、豊かな可能性が国内のみならず海外の方にも興味を惹きつけているのかもしれないですね。本誌の「アーニフェイスクード」はTSUNAGU特別仕様になっています。皆さん是非、お試しください。

そして、当社は中期経営計画にもあるように2024年に100周年を迎えます。今まで受け継いできた良き伝統を継承しつつも、進化し続けるKPPを目指し、次世代に繋いでいきたいですね。ORIGAMIのように…。(JS)

子どもの頃、待ちに待った夏休み。何かがありそうでワクワクしたものだ。その気分は大人になっても変わらない。夏の初めの大きな期待と、夏の終わりのちよっぴりほる苦い思いが、毎年繰り返されてきた。それでも、うっとうしい梅雨が明け、真蒼青な空にムクムクと立ち昇る入道雲を見ると、ああ、今年も夏がきたーと、思うのである。

今号では、そんな夏に関わる記事を随所に盛り込んでみました。かくれんぼの鬼になつた気分、本誌に隠れた「夏」を探して、もう一度読み返してみるのも楽しいかもしれませんね。(TK)



『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』
善多川 泰(著) / サンマーク出版

ちいさな嘘からはじまった 真夏の「旅」の物語。

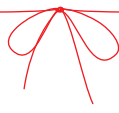
観光のイメージが強い「旅行」と違い、「旅」は新たな出会いをもたらしてくれるものようだ。住み慣れた場所を離れて旅に出た先には、それまで想像したことともなかった、そこに暮らす人びとの姿がある。そして「旅」は、人を成長させる。

何気なくついでにしまった嘘のために、夏休みに熊本から東京デイズニールランドに出かけることになった17歳の秋月和也。日帰り旅行のはずが、帰りのバスが遅れて最終の飛行機を逃してしまう。ここから彼の5日間にわたる「旅」が始まる。

家に泊めてくれた空港のみやげもの屋のおばさんから「良い居候になる方法」―掃除やゴミ出しをする―を教わった主人公は、これまで母親がやってくれるのを当然と考えていたことに気づく。何もしないより気持ち楽だということも。

寄り道だらけになった旅のなかで、たくさんの方の日常にふれ、そこから自分を見つめ直し、生きる力を学んでいく主人公。真夏の太陽の下、乗せてもらったトラックの掃除をしたり自転車で走り続けたりとラクではない旅のなかで、無気力でプライドだけは高かった17歳は、生きる力にあふれた若者へと育っていく。

「人生は誰と出会うかで決まる」と著者は語る。そこから生まれながらに持っている「生きる力」を見いだせたとき、人は無気力ではいられなくなるのだろう。ところがオープンになりやすい夏、「旅」に出かけてみてはどうだろう。思いがけない出会いが待っているかもしれない。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコプレス
バインダー

針金・糊・加熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社

KOKUSAI PULP & PAPER CO., LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号

TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>